

# マラウイの未来のリーダー育成を支援

## 2011/5/26 ムズズ大学で 第3回国際友好賞 (IFA)授与式

5月26日、マラウイ国立ムズズ大学で卒業式が挙行され、今年で3回目となるハーベストタイムの「国際友好賞 International Friendship Award (IFA)」が授与されました。

これは、学部最優秀の成績を収め、大学院進学を希望している学生に授与されるものです。

その模様は、大学側からの報告がまだ届いていないため、直ぐにはお伝えできませんが、昨年の卒業式、第2回 IFA 授賞式(5月)の様子を大学から送られてきた DVD からご紹介します。

まず会場には、詰めすぎ?と思われるほどの卒業生が、(ちなみに今年は約400名とありました。)座っています。一人一人壇上に進み、卒業証書を授与されるのですが、壇上には総長・教授陣の他、政府からの来賓が座り、その壇上の足下を飾っているのは、ヤシの葉のような青々とした植物……、開放的な感じがします。



さらに、大変興味深いというか、さすがにマラウイの卒業式!……、と感じさせられるのは、大きな「法螺貝」のような土着の楽器?による、ゆったりとした「ブウォ〜♪」というサウンドです。

一人ずつ名前が呼ばれた後に、この「ブウォ〜♪」が会場に響きわたるのです。初め「ん?この音は何?」と、でもそのうち慣れて、これはきっと!色々な困難を乗り越えて無事卒業できる「勝利」を象徴しているのでは?と思えて……、不思議な親しみを覚えました。

そして一人ずつ壇上に進み総長にお辞儀・握手した後、喜びを表現します。爽やかな微笑ましい光景です。



卒業証書授与に続き、「HAT 国際友好賞 (IFA)」の授与です。選ばれた卒業生は、一人ずつあらためて壇上に進み、全卒業生が見守る中で、駐マラウイ日本大使館・松本臨時代理大使から、祝福の挨拶と共に奨学金が手渡されました。壇上の来賓達からも祝福の握手とハグが!

今年も同じような状況の中で、卒業式ならびに IFA 授与式が挙行されたものと思います。IFA 授与者、また全ての卒業生達が、マラウイの社会開発や発展に活躍してくれることを祈っています。





壇上で、教授・来賓の見守る中、松本臨時代理大使が受賞者一人一人に、IFA 奨学金を授与しました。

#### 今年(2011)の授与者(5名)のプロフィール

(Ms.) Carolyne Nachiola さん

「無類の努力家で、困難に屈しない強さ」と自身を表しています。2005年の国家試験で最高レベルの19点を取得後、マラウイ・ポリテクニックスの理数系クラスに選拔されましたが経済的に叶わず、政府の奨学金でムズズ大学に進学。観光学科をトップで卒業。「豊富な観光資源を紹介して、マラウイの発展に貢献したい。」と、胸を膨らませています。

(Mr.) Zandivuta Kankhuni さん

10人兄弟の7番目。毎日14km先の小学校へ通学。帰宅後は家畜の世話で疲れて勉強は殆どできなかったそうです。両親とも教育を受ける機会がなく、唯一お兄さんがカレッジに進学！そして世界史や地理について教えてくれて。そのお兄さんの教材を内緒で見ると、シェークスピアやマーク・アンソニーの言葉を誦んだそうです。周りが驚く中、国家試験では16点を取得しムズズ大学に入学。初め自分は劣等生だと、校内の廊下を歩くのも怖かったようですが、ウガンダへの派遣メンバーに選拔された頃より、少しずつ自信を持ち、「大学生活は、私を責任感のある、信頼に足る人間にしてくれた。」と語っています。

(Mr.) Austin Patikani Theu さん

再生可能エネルギーおよび灌漑設備の問題について研究を重ね、「マラウイのエネルギーセクターが直面する、エネルギー政策、経営また意思決定などの分野で、種々の問題解決に対応できる。」という彼は「最新のエネルギー技術を採用し、国の豊かな自然資源を守り、環境にやさしいエネルギー政策を取り入れる必要がある。」とし、「ムズズ大学では、エネルギー・エキスパートとしてのキャリアを収め、今後はさらに専門家グループの一員として活躍したい。」との抱負を。そして「IFA 授与は大変嬉しい！選拔されたのは、現在まで培った勉学や努力に対してだと思われるので、むしろ当然である。」と結んでいます。

(Ms.) Cecilia Ngwira さん

マラウイ・ニュース・エージェンシーの臨時通信員、また秘書などのアルバイトをこなしながら勉学に努め、観光経営の分野でトップの成績を収めました。さらに幅広い能力を養い、将来は起業して、雇用機会を創出したいと考えています。

(Mr.) Chiamiko Chinkwita-Phiri さん

大変貧しい家庭に育ち、小学校、中・高等学校と、昼食なし、また小遣いを一切持たずに通いました。でも両親は常々「一生懸命働く事と神への祈りが、成功への鍵」と。そして「出会う人達は皆、神が創造されたのだから、互いに尊敬し受け入れなさい！」と教え、豊かではなくとも、教育の大切さを教えてくれたそうです。大学では、マラウイを含むアフリカの発展途上国の政治および経済状況を学び、地域開発の研究を収めました。「400人の卒業生の中からIFAを授与できることは、大変名誉なことであり、神に感謝します。」と喜びを述べています。

国際友好賞(IFA)の奨学金は、年会費およびコピー販売の収益を充てております。皆様の温かいご支援で実現できております。大変ありがとうございます。